

令和2年度 後期日程 入学者選抜学力検査問題
公共政策学部 小論文 出題意図

一

問一

人口減少社会において進行している家族形態の変化について、著者の記述している文章をいかに正確かつ簡潔にまとめられるかを問うている。かつては夫婦と子からなる核家族世帯をいわゆる標準世帯としていたが、現在は単独世帯が増加し、家族は多様化している。その背景にある未婚化や非婚化、晩婚化といった要因について把握し、的確に記述しているかが評価のポイントになる。

問二

設問1にあるように、かつては夫婦と子からなる核家族世帯をいわゆる標準世帯としており、現在の諸制度は核家族世帯を念頭においてつくられてきた。しかし、今後は家族による支援を前提としない仕組みづくり、公的サービスや地域社会のつながりが求められる。この設問では、こうした人口減少社会の現状と課題を的確に踏まえ、解答者自身が考えられる対策および支援について論理的に述べられているかを問うている。

二

問題で取り上げた2つの図表から、日本の労働力人口がどのように推移しているのか、また2010年以降の有効求人倍率の上昇が何を意味するのかを読み取る問題である。

評価のポイントは、主に以下の2点である。

- 1、図1より、①いわゆるリーマンショックの影響等を機に2008年以降、有効求人倍率が減少したが、2010年以降は再び増加傾向にあること、②2007年までと2014年以降は、有効求人倍率がいずれも1を超えているが、前者では有効求人数と有効求職者数がともに微減で推移していたのに対して、後者では有効求人数が年々増加している一方で、有効求職者数は逆に年々減少しているという点で状況が異なることを指摘できているか。
- 2、表1より、①15～64歳の生産年齢人口、さらにはその次の世代（0～14歳）の人口が今後さらに減少し、人手不足がより深刻になることが予測されること、②労働力人口を確保するためには高齢者や非正規労働者、外国人労働者の雇用を拡大するのか、一人当たりの労働生産性をいかにして上げるのかなどの課題を指摘できているか。

三

「新しい技術」と社会の関係について、AIがもたらす「主体と客体の転倒」が、社会にどのような帰結をもたらすか、どのように対応すべきかを考察し、論理的に述べることができるかを問う問題である。文中で例示されている自動運転やゲノム編集、または、他の具体例をあげて、筆者の主張を踏まえ、たうえで議論を組み立て、自分の主張を具体的に展開できていることが評価のポイントとなる。